

新年度予算と財政(歳入)の長期展望について

たかやま自民クラブ
橋本正彦



問 納税者人口の減少や高齢化、経済活動の停滞による収税減、社会保障費等の歳出増加に伴う今後の財政(歳入)状況と見通しは。

答 財政状況の健全化を示す国の指標があり、現在は、それを下回り良好な状況である。短期的には著大事業の実施などがあり、歳出総額は増加するが、当面、健全財政は堅持できる状況である。しかし、将来的には厳しい財政運営を強いられる事が見込まれるため、事業の選択と集中、事業見直しの推進など、歳出面で取組の強化を図り、持続可能な財政運営に努める。



新ごみ処理施設イメージ図

国からのマスク着用の見直しの方針について

無会派
片野晶子



問 マスクの着用について、本人の判断に任せるのみでは混乱すると考えられることから、メリットデメリットを確認した上で、学校現場での話し合いが必要と考えるが、学校や幼稚園、保育施設などで子どもに対してどのように対応するのか。

答 保育園、幼稚園においてはマスク着用は求めない。小中学校においては、国・県の方針で4月1日よりマスク着用を求めない。子ども達の健やかな発育、発達の妨げにならないよう、子どもたちや保護者へ情報提供を通じて判断がしやすい環境づくりに努める。



高山厚生病院の存続について

無会派
上嶋希代子



問 高山厚生病院は、これまで医療や介護を必要とする患者を受け入れてきており、介護医療院としての存続が求められていたが、医師不足や建て替え建設資金の不足などから10月閉鎖とされた。市の対応は。

答 高山厚生病院の存続について関係機関と連携して取組んできた。廃院は残念な結果。介護医療院の必要性、医療スタッフの確保については、強く認識している。飛騨3市1村の中核となる高山市としては、県をはじめ関係機関と連携して必要な医療確保に努力していく。



ふるさと納税推進及び運営業務委託について

創政・改革クラブ
岩垣和彦



問 次年度のふるさと納税推進及び運営業務委託(返礼品)について全国公募で新たな事業者を選定したが、その経緯と理由は。また、高山市公契約条例に「市内事業者の積極的な活用を図る」と述べられているが、対応は適正であったか。

答 ふるさと納税は全国的に切磋琢磨され、新たな知見や手法が必要となってきていることから、市として最大の効果が得られるよう、全国公募によるプロポーザル審査を実施してきた。今回の件については、反省点もあったと思っており、今後のプロポーザルについては、求める範囲をどこまでにするかということについて、今回のことを検証しながら考えたい。

